

重心ネットワーク部会報告

令和4年度 都筑区自立支援協議会 代表者会議

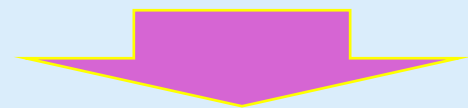
幹事紹介

- | | | | | |
|--------------------|--------------------|-----|----|----|
| ・ 都筑区医師会訪問看護ステーション | 部会長：宮島 | 小野 | | |
| ・ 北綱島特別支援学校 | | 生出 | | |
| ・ 若葉台特別支援学校 | | 吉川 | | |
| ・ 横浜医療福祉センター港南 | | 大矢 | | |
| ・ 横浜市多機能型拠点つづきの家 | つづきワイワイ広場 | 横瀬 | | |
| // | 横浜障がい者サポートセンターぽれぽれ | 宮田 | | |
| // | つづきの家相談支援センター | 平野 | | |
| ・ 都筑区こども家庭支援科 | 宮崎 | 大鶴留 | 大内 | 長瀬 |
| ・ 都筑区基幹相談支援センター | | 坂本 | | 吉濱 |

重心ネットワーク部会設立の目的

＜重心児者の課題＞

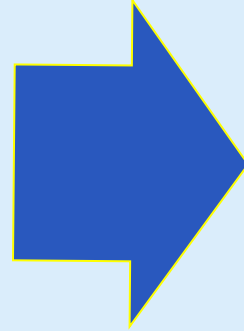
ひとつの機関での解決は難しい
地域課題となりうる課題が多い



関係機関同士が相談や情報共有できるよう
顔の見えるネットワークを作りをするを目的としている

重心ネットワーク部会設立の目的

- ・利用できる
資源や人材不足
- ・地域の支援体が
薄い



- ・関係機関のネッ
トワーク作り
- ・重心の方の事を
広く知ってもらう

平成30年部会立ち上げからの取り組み

- ①事例検討
- ②重心の方との関わりの中で感じていることなどを話す会の実施
- ③防災について考える
- ④施設見学
- ⑤新型コロナウイルスの感染対策について
- ⑥基本的な口腔衛生や支援・観察のポイントを学ぼう

重心の方を取り巻く地域課題

- 障がいに対する理解の促進
- 利用できる資源に限られる（支援者不足）
- 在宅・地域生活を支えるヘルパーの担い手不足
- 医師・医療職も含めたチーム形成の必要性
- 喀痰吸引等研修の負担が大きい
- 震災時の対応
- 「重心」ではないが、医療ケアを必要とするお子さんが増えている
- コロナ禍の情報共有

これからの取り組み ～よりよい支援につなげていくために～

- ①重心の方を知ってもらう機会作り（事例検討など）
- ②支援者同士のネットワーク作り・若い世代への働きかけ
- ③医師・医療職も含めた連携・チーム作り
- ④喀痰吸引研修について理解を深める
- ⑤震災時対応の周知・検討の継続
- ⑥コロナ禍の対応・対策の情報共有や連携方法の検討
- ⑦施設見学会や交流会【老人保健施設での重心の方の短期入所の受け入れについて】

重心の方の暮らしの充実や
支援の広がりに繋がるよう
取り組んでいきます